

2005年度 活動のまとめ

方針 1 人々のねがいと結び、歌いつがれてきたうたを歌い、創り、「みんなうたう会」を旺盛に展開し、“共に生きる町づくり・地域づくり”のうたごえを広げる。

[1] 演奏・普及

被爆・戦後60年の年、被爆国から核兵器廃絶の声を、アジアの国々を侵略した戦争の歴史を再び繰り返さないと生み出した平和憲法をまもり、いのちかがやく社会を、とこの1年、精力的に演奏・普及活動が展開された。その活動を、ひろしま祭典につなげ、被爆地から世界に平和のうたごえを発信した。それらの活動から特徴点に絞ってまとめとする。

1 平和・憲法九条をまもり・いかすうたごえ

全国4000余に広がった“九条の会”と連動して 全国で4000を越える各地各分野の“九条の会”が発足した。うたごえでは、レガータ（大阪）、関西合唱団、北九州青い空合唱団、女性のうたごえコスモス（岐阜）などで九条の会が発足した。また、“音楽・九条の会”も9月に結成され、06年1月、大阪で発足コンサートが開かれた。

各地の“九条の会”結成準備会、発足会での演奏、大阪のうたごえの独自街頭アピール、ピースパレードをはじめ、街頭、駅前、路上ライブなどで、「日本国憲法第九条」「あたらしい憲法のはなし」「Love and Peace」「ヒロシマの有る国で」「ねがい」「その手の中に」「あの日の授業」などを演奏し、九条アピールを展開。数多くの曲も生み出された。

各地の“九条の会”発足により、様々なイベントが企画される中で、うたごえと地元の音楽家、音楽団体、合唱団との共同が大きく進んだ。東京・町田市での市内合唱団との共同、女性のうたごえコスモスでは他の合唱団と合同で「あなたが夜明けをつげる子どもたち」を県民集会で演奏。長崎のうたごえは“PACK9 (peace act constitution keep)”野外ステージで31団体と共演。“WE LOVE 9条みんなでうたごえフェスティバル埼玉”は20組が出演し、合唱、ソロ、バンド、コントで九条をアピールした。

また、被爆60年、各地の平和コンサート、ピースフェスティバルなどの企画も、前面に九条がかげられた。

被爆60年、いのち輝け憲法九条『平和のうた』募集 「世界中に平和を、21世紀の羅針盤・憲法九条のうたを」とよびかけた歌の募集は、206曲が寄せられ、特選以下6曲が選ばれた。入選曲他、生まれた歌は各地で普及された。

語りと合唱による構成『平和の旅へ』 修学旅行生に伝える演奏はじめ“長崎・平和の旅へ合唱団”が広げている「平和の旅へ」は、原水爆禁止世界大会・長崎“文化の夕べ”で全九州250人で演奏。この他、高校の平和学習の一環でも歌われた。

『ねがい』のひろがり 広島の大州中学から生まれた「ねがい」は、インターネットを通じて世界中に広がり、ひろしま祭典では中学生をはじめ、ゲストの韓国・キム・ウォンジュンさんがハングルで、ナターシャ・グジー&カーチャさんらがウクライナ語で演奏し、さらに、ベトナム、シエラレオネなどで歌われる映像も流された。その模様と「ねがい」を追ったドキュメントがNHK TVで特集された。また、8月のアジアの風合唱団訪韓演奏に広島、兵庫の教師・中学生が参加。“うたごえ喫茶ともしび”の春の大うたう会では若者1000人での「ねがい」大合唱をと企画されるなど、大きく広がった。

混声合唱組曲『悪魔の飽食』 全国連絡会議でとりくまれ、公演地での専門家・音楽団体などとの共同を広げているこの組曲上演運動=全国縦断コンサート=は、2月、高知センター合唱団40周年記念と合わせて第16回公演が行われた。三島市民平和のつどいで三島どんぐり合唱団が演奏、06年第17回縦断公演へ。鹿児島では06年九州のうたごえ祭典での演奏にむけ準備が始まった。

8月には、抗日戦争勝利60周年を迎えた中国で第二次中国公演が行われ、189人が参加。アジアと世界の平和のために音楽を通して行動している日本人の存在を伝えた公演は中国のマスコミが一斉に報じた。

被爆・戦後60年に日米の架け橋、合唱組曲『ウミホタル コスモブルーは平和の色』 千葉・館山の戦争遺跡を現代に伝える活動と教育・千葉のうたごえの2年がかりのとりくみが実り、組曲初演後、地元ウミホタル合唱団が発足した。

この他、平和音楽会では、被爆ピアノを迎えてのコンサート(北海道、兵庫他)、「平和の火」がともる福岡・星野村での平和祈念コンサートでは地元中学生に歌い継がれる「この灯を永遠に」を“この灯を永遠に合唱団”(東京)などと合同で演奏された。神戸では非核神戸方式を歌う「波よひろがれ」が普及された。

また、ひろしま祭典成功と連動させた 60万羽の折り鶴運動 は歌「鶴に願いをこめて」も生まれ、全国でとりくまれ、328992羽の折り鶴が広島に持ち寄られた。

被爆60年・核兵器廃絶のとりくみとうたごえ

3・1ビキニデー、NPT再検討会議ニューヨーク大集会、国民平和大行進、原水爆禁止世界大会と、被爆60年の05年は、核兵器廃絶のとりくみも、多くの青年たちの参加と共に大きく発展し、「核も戦争もない公正な世界を」の世論は世界共通のものになってきた。

うたごえは、ひろしま祭典へ向けてのとりくみと合わせ、「この年にこそこの歌を」の思いで、被爆の実相を、被爆者援護のたたかいを、新たな被爆者をつくらぬ決意を歌い広めてきた。東京・上野での6・9行動に、学校の合唱祭に「ヒロシマの有る国で」を歌って参加する高校生が飛び入りで演奏するなどの広がりを見せている。

世界大会 広島では、3000人が参加した“世界青年集会”や青年の分科会第2部として青年自らが企画し運営する“青年のひろば”にうたごえの青年たちも積極的にかかわり、その成功に貢献した。「ねがい」をはじめ反核平和の歌が国外からの参加者やアーチ

ストとともに演奏された。

長崎のつどいの第2部「文化の夕べ」は、世界大会の主催行事として開かれ、長崎・九州のうたごえを中心とする「平和の旅へ」の大合唱は渡辺千恵子さん役の日色ともゑさんの朗読もあり、海外代表のスタンディングオベーションを受けた。日本のうたごえ合唱団による集中した演奏、04年日本のうたごえ祭典・沖縄でつながった読谷村の子ども獅子舞など、企画制作にうたごえがしっかりとかわり、被爆60年の世界大会を文化的にも充実したものとして成功させる上で大きな役割を果たした。

*被爆60年、平和・憲法九条を軸に様々な活動、特に九条の会での演奏依頼に応える活動が展開されたが、「改憲」の側の文化戦略も映像・メディアを駆使して進められている。これを乗り越える、九条の輝きを発信し、共同の輪を作っていく活動が急速に求められている。

2 働く者の声と

神戸青年合唱団らうたごえも支援してきた27年に及ぶ川崎重工争議が一括勝利した。05年、約100件の賃金差別、不当労働行為の争議が勝利している。

職場を暮らしをよくしていこうと歌が作られ広められた。各サークルがコンサートを開いている保育のうたごえはそのなかで会員を増やし、国鉄のうたごえでは祭典を機に、国鉄北海道合唱団が誕生した。大阪府庁うたごえ合唱団40周年、通産のうたごえ50周年のコンサートが開かれ、電通西南コーラスはうたごえを定期的開催している。三多摩青年合唱団は横河電機の「成果主義制度」導入の実態と矛盾を音楽構成にして、春の音楽会を開いた。

現役を励ます職場のうたごえOB合唱団の活動、職場の枠を越え、新たにうたごえに参加する人を迎えている「OH!人生男声合唱団」(愛知)、労働組合事務所が集まるビルのホール(都内・大塚)で年4回開催の「大塚のうたごえ酒場」は「歌が取り持って人と出会える場」として職場・地域に広げている。

働く者の権利を掲げ、18年の裁判を闘った電通長岡事件原告近藤芳子さんを歌う合唱組曲「母さんの樹」が初演地新潟で26年ぶりに再演された。闘いの歴史と息吹を再び、と70人の合唱隊、若い音楽家たちとの協同で開催、公演成功後、合唱団「樹」が誕生した。公演をひきつぎ群馬で、NTTリストラ反対裁判裁判の判決前にと原告、群馬子どもの人権宣言合唱団を中心に06年7月、「母さんの樹」公演が準備されている。

春闘・メーデーとうたごえ 暮らしを守る国民春闘、総行動などでメーデー歌集が普及され、「8時間ソング」「憲法九条五月晴れ」などが広く普及された。大資本の牙城トヨタ本社前での1500人集会にはトヨタ車体労働者うたごえはじめ愛知のうたごえが「トヨタかぞえうた」を広めた。岩手では労働者合唱団を結成して「地底のうた」が、沖縄メーデーでは基地反対と合わせて「わたしの平和憲法九条」が普及された。

職場にうたごえを起こす、地域にうたごえを届ける活動 メーデー歌集 のとりくみの典型は05年も団で2500冊普及、南部合唱団(東京)の活動がある。年頭のあいさつとしてメーデー歌集普及を位置づけ、班体制で地域・職場に入り、そこでの声、要求を聞き、昼休みデモ、新人歓迎会、集会、イベントに歌を届けている。こうした活動を音楽づ

くり、定期演奏会につなげている。

地域・職場からうたごえを起こす活動は、職場のうたごえの高齢化が進むなか、また、フリーターなど未組織労働者が増えている今、ますます重要になっている。

3 暮らしの中から

子どもの未来を育むうたごえ 憲法改悪と一体となって教育基本法改悪案が出されている今こそこの歌を、と「子どもを守るうた」の大合唱が呼びかけられた大阪では、教師、退職者、保護者に広げられている。

合唱構成「ぞうれっしゃがやってきた」は、オーケストラと上演の栃木はじめ、和歌山の御坊市と海南市など各地の平和コンサートで、学童保育全国大会（神奈川・1000人の合唱）で、保育実践にうたごえをとりいれている鳩の森愛の詩保育園（神奈川）開園20年コンサートの園児、保護者、保育士の大合唱など05年も大きな広がりを作った。愛知子どもの幸せと平和を願う合唱団によって作られた学童保育の歌でCD「放課後のおうち」が発行された。

「平和を愛する子ども・大人を育てよう」と活動する二本松はじめ、中山譲さんら“つながりあそび・うた”は、全国での講習会をはじめ、保育園、幼稚園、学校などに広がり、保育のうたごえとも連動して歌の輪を広げている。

母親運動とうたごえ 05年日本母親大会（茨城・ひたちなか市）では、地元の詩人野口雨情をテーマに“雨情を歌う合唱団”を結成し、県下3カ所で練習会を開き170人の合唱団で演奏された。また、紫金草を広めた地元での開催に全国の紫金草合唱団による「紫金草物語」も演奏された。この他、群馬、愛媛、福岡をはじめ各地の母親大会でのうたごえ運動、うたごえ分科会が行われた。

ますます盛ん高齢者のうたごえ 「胸に9の文字」、テーマソングは「長生き節」の年金者組合うたごえサークル“こだま”（埼玉）誕生。日本シニア合唱団（東京）が加盟、独自コンサートも計画されている。青森もうたう会が盛ん、静岡・年金者組合が地元紙でうたごえ喫茶をよびかけると60人が参加。歌う要求が渦巻いている年金者組合では、日本のうたごえ祭典参加が一貫して運動方針に掲げられている。

生きる力・うたごえ スペシャルオリンピックス（長野）で長野市内小学校の和太鼓クラブ、“麦っ子広場”と長野合唱団が出演。作業所運動との連携では、広島とうたごえのもみじ作業所との歌作りをひろしま祭典“共に生きる街合唱団”につなげた。また、「平和のうた」募集で京都・宇治共同作業所のびのび班創作の「へいわのうた」が特選となった。

阪神・淡路大震災10年、中越地震1年の05年。慰問演奏を続けているMs.（京都）。被災地の神戸青年合唱団初演の組曲「いのち 大震災あれから10年」が東京の中学生に歌い継がれ、平和学習で演奏された。神戸市役所センター合唱団は、被災の翌年制作し歌い継いできた阪神大震災鎮魂組曲「1995年1月17日」を持って、10月、中越地震被災者支援・小千谷公演を開いた。その活動は、「自らの被災の体験を歌で支援する団の

演奏にうたごえの真髄を見た」(新潟・うたごえサークルたけのこ大口知子)、とうたごえの仲間も励ました。

*毎週金曜日、駅頭で平和のうたごえを響かせている国鉄東京合唱団、月一回の駅前行動を始めた千葉・合唱団プリマベラの継続的な活動から、演奏・普及の原点を学びたい。強力な“メディア・コントロール”を跳ね返し、真にいのちかがやく時代をつくるのは、感動する心を伝え合う日々の営みである。コントロールを打ち破る、ヒューマンな感動、伝え手を視野に入れた、豊かな演奏・普及活動はますます求められている。

[2] 創作活動

05年度の創作活動は、『平和のうた』募集で国民的愛唱歌を作り出そう、との呼びかけで始まった。全国からの声も寄せ合い、特選「へいわのうた」、入選「ひとつのピース」はじめ6曲を選び、ひろしま祭典を軸に歌い広げてきた。また、昨年も、千葉、名古屋、京都の研究生うたの学校や青年、静岡TOMO、岡山のうたごえ、東京にんたま合唱部、産別の創作、東北創作センター、東京、京都、九州などの創作発表会ほか全国各地で旺盛な創作活動がとりくまれた。

なかでも、千葉県館山市の地域や行政のとりくみと結びついて運動を発展させる力となった合唱組曲「ウミホタル」のとりくみ、インターネットで世界中から300番にもなる歌詞が生まれた「ねがい」のうねりなど、うたごえの枠を大きく超えて広げられているとりくみは特徴的である。また、オリジナルコンサートで、生活とたたかいに根ざした多くの素晴らしい曲を発表した愛知の、創作発表会と創作曲集を毎年発行し続けてきた運動は全国で学び広げたい。

江ノ島での全国創作合宿(30人)では、門倉さとし、大西進、小林康浩氏から学びつつ、集団創作で作り出す瞬間に立ち会う感動を味わい、新しい参加者をひろげてきたが、今後一層若い創り手を増やし育てていくとりくみが必要である。

また、全国の創作運動の結集の場、「オリジナルコンサート」をひろしま祭典期間中に開催。限られた時間の中での制約はあったが、全国から16団体43曲が発表され、話題になった曲がうたごえ新聞紙上で発表された。

今後の課題は、もっともっと各サークルの一人ひとりが自己表現のスタートとして創作にとりくみ、歌い広げながら、産声を上げた作品を練り上げ育てていく作業を重視すること、

各県・産別・階層のうたごえが創作運動に力を注ぎ、新しい創り手を育てていくこと、創作合宿やオリジナルコンサートの開催の工夫、

日常的な全国の創作活動家の交流や学びあいを生み出す創作センターの確立、などである。

多くの国民の要求や願いに応え、生きる力と心をむすぶ魅力あふれる歌づくりと普及の運動を、一層力強くすすめるために、うたごえの総力を挙げた「創作運動」が求められている。

[3] アコーディオンの活動

アコーディオンの活動では、関東アコーディオン演奏交流会第17回が開かれ、東京、埼玉、群馬、神奈川、千葉から43人が参加。また、8月には日本アコーディオン協会主催“アコーディオンサマーフェスタ2005”が7日間開かれ、中国の青少年によるアコーディオンオーケストラが来日、演奏交流会も開かれた。神奈川のうたごえ祭典ではアコーディオン合同が行われた。西日本アコ仲間のつどい講座と交流会が行われた。また、うたごえ喫茶の伴奏アピールなども積極的に行われた。